

みなさん、こんにちは。  
ぼかぼかの陽気に誘われて公園では桜が満開です。そんな時は少し足をのばしてお出かけしたくなりますね。  
春の県立文化施設では、楽しいイベントをたくさん開催しています。ぜひ家族やお友達を誘って遊びに来てみませんか？

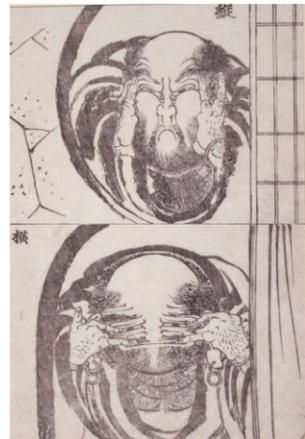
**県立博物館**  
開館15周年  
葛飾北斎生誕260周年記念特別展  
「浦上コレクション」北斎漫画  
「驚異の眼・脅威の筆」



世界的に有名な浮世絵師・葛飾北斎（1760〜1849）。北斎は、19歳で絵師となつてから、90歳で亡くなるまでの70年余りを画業に捧げました。『北斎漫画』の刊行は、北斎が55歳の1814（文化11）年に開始され、北斎没後の1878（明治11）年まで続けられており、絵師北斎の代表作として知られています。



「風のいたずら」  
（『北斎漫画』浦上コレクション）



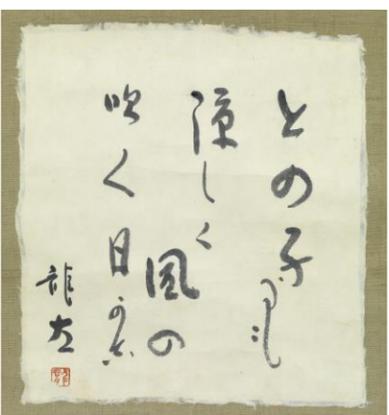
「縦・横」  
（『北斎漫画』浦上コレクション）

『北斎漫画』には、江戸の様々な身分・職業の人々の暮らしぶりや、花鳥・山水にとどまらず、神仏や幽霊、風や水の動きなど目に見えないものまでが描き出されています。それは北斎の徹底した観察眼と、大胆かつ緻密な表現力のたまものといえるでしょう。北斎は最期に「天が我にあと5年の命を与えてくれたならば、真正の画工となることができたらものを・・・」と残して亡くなりました。北斎が生涯を賭けて目指した「真正の画工」。本展では、それに限りなく近づいた北斎の妙技を、世界一の質と量を誇る浦上コレクションから厳選した数々の作品によりご紹介いたします。  
本展の開催期間中、常設展示室では、北斎のもう一つの代表作「富嶽三十六景」を特別公開いたします。今年発給が開始された新旅券（パスポート）のデザインにも用いられた世界的な傑作をこの機会にあわせてご覧ください。  
開催期間は5月11日（月曜日）までです。※開始日に関しては令和2年3月末時点で未定。

**県立美術館**  
特別展  
「キューガーデン」  
英国王室が愛した花々  
シャーロット王妃とポタニカルアート



みなさんは花の絵を描いたことがありますか？ この展覧会では美しい花々を描いたポタニカルアートを展示します。ポタニカルアートとは植物を描いた絵のことで、科学的に正確に描かれていることを前提として、芸術性も認められる作品のことをさします。  
イギリスのロンドンには、世界遺産になっているキューガーデンという大きな植物園があります。この植物園には約260年の歴史があり、世界中からさまざまな植物を集め、育てたり、標本を作ったり、記録のために絵を描いたりしてきました。この展覧会では、キューガーデンが所蔵するポタニカルアートなど約100点を展示します。  
キューガーデンの歴史を支えた人たちの中に、18世紀に生きたシャーロット王妃がいます。彼女は芸術や科学を保護し、植物学に精通し、キューガーデンを発展させました。この展覧会では、ポタニカルアートの他にも、シャーロット王妃が愛したウェッジウッドの陶磁器や、当時の邸宅の部屋を一部再現した展示も行います。春から初夏にかけて、芸術の森公園のバラ園と一緒に、ぜひ美術館の展覧会を見に来てくださいね！  
開催期間は4月25日（土曜日）から6月21日（日曜日）までです。



「どの子にも涼しく風の吹く日かな」軸装

**県立文学館**  
特設展  
「飯田龍太展 生誕100年」




ポタン

Photo Brain Trust Inc.

「どの子にも涼しく風の吹く日かな」  
この俳句を読んで、皆さんはどんな風景を思い浮かべますか？ 夏の日差しがまぶしい、ある日のこと。さあつと風が吹いていく時の気持ち良さを思い出してみてください。子ども達は校庭で遊んでいるのでしょうか。元氣良く遊んでいる子にも、すみっこに一人でしゃがんでいる子にも、風は同じように涼しく吹いているなあと、この俳句は優しくうたっています。



自宅裏の竹林にて  
昭和30年代撮影 若林賢明

作者の飯田龍太（1920〜2007）は、笛吹市境川町小黒坂に生まれ、学生時代の数年間をのぞく86年の生涯をここで過ごしました。父親の飯田蛇笏も有名な俳人でしたが、龍太は1940年代後半から活躍を始め、やがて高い評価を受けるようになりました。  
龍太が生まれて100年目の今年開催する「飯田龍太展」では、龍太が詠んだたくさんの方句を取り上げます。釣りの名人だったこと、鳥の観察が好きだったこと、カメラで村の様子を色々撮影していたことなど、日常生活も紹介いたします。  
開催期間は、4月25日（土曜日）から6月21日（日曜日）までです。

**県立考古博物館**  
春季企画展  
「縄文時代の小さなつづわ」



縄文土器は、今からおおよそ1万5000年前から1万年以上の間続いた縄文時代に造られた土製の焼き物です。

縄文土器の多くは煮炊き——つまり「鍋」として使われていたと考えられており、中には一人では持てないくらい大きな土器も存在します。

一方、5000年ほど前の縄文時代の中頃には、鍋として使うにはあまりに小さな、手のひらサイズの土器が数多く造られはじめました。これらは調理のためではなく、祭祀具(お祭りの道具)や子どもたちの遊び道具として用いられたと考えられており、小ぶりながらも大きな土器に負けなくらい精巧な造りをしています。



手のひらサイズの小形土器  
酒呑場遺跡 縄文時代

今回の企画展では、そんな小形の縄文土器にスポットを当て、大きくて豪華な文様のついた土器だけでなく、小さくても本格的な造りをした土器の面白さもみなさんにご紹介したいと思います。

縄文時代に造られたさまざまな形の土器を見ることで、当時の人々がどんな生活を営んでいたか想像してみられるのも楽しいかもしれませんね。  
開催期間は4月18日(土曜日)から6月14日(日曜日)までです。

県立図書館  
資料紹介展示

「こどもにすすめたい本2020」



山梨県内の公共図書館等の職員が、2019年に出版された本の中から「こどもにすすめたい本」110冊を選び、冊子を作成しました。

資料紹介展示「こどもにすすめたい本2020」では、これらの本を集めて展示を行います。展示されている本は、手に取って読むことができます。授業で活用したい本、読み聞かせに使う本をお探しの先生方もぜひご覧ください。また、展示場所では冊子の配布も行います。こちらも活用ください。

開催期間は、4月18日(土曜日)から5月15日(金曜日)までです。また、期間中の土曜日・日曜日・祝日の午後2時30分からは、3歳から小学生向けに「とことこおはなし会」こどもにすすめたい本「バージョン」として、紹介図書の読み聞かせも行います。あわせてお楽しみください。  
※期間中の休館日は、4月20日(月曜日)、27日(月曜日)、5月7日(木曜日)、11日(月曜日)です。



昨年の展示の様子

県立科学館

「やまなしスライムフェスティバル」



県立科学館では、ゴールデンウィーク期間中、実験でおなじみのスライムをテーマにした特別イベント「やまなしスライムフェスティバル」を開催します。

キラキラのラメやモコモコの泡など、好きなトッピングで自分だけのオリジナルスライムを作ったり、いろいろなスライムを立体コースの上からドロップと流してゴールまで競ったり、ビニール手袋をはめてスライムを的に向かってベシヤツと投げたりできる、スライムづくしのイベントです。他にも、わたしたちの生活の中でスライムがどのように役立っているか、パネル展示でくわしく解説します。

普段できない方法で楽しく遊びながら、液体でも固体でもない、不思議なスライムの科学にせまらしましょう。  
開催期間は、4月29日(水曜日)・祝日)から5月10日(日曜日)までです。多目的ホールにて期間中、毎日開催します。詳しくは県立科学館ホームページをご覧ください。電話は〇五五・二五四・八一五一。



イベントの様子

山梨近代人物館

第11回展示

開館5周年記念

「郷土をひらいた先駆者たち」



山梨近代人物館は山梨県ゆかりの人物や県政の歴史を紹介して、多くの皆さんに親しんでいただいています。

今年開館5周年を迎える山梨近代人物館では、4月から「郷土をひらいた先駆者たち」というテーマで、第11回展示を行います。開拓的な役割を果たした、山梨県ゆかりの人々に出会うことができます。

巨摩郡北部の日野原(現在の日野春)開拓に献身した政治家の富岡敬明や、「清里の父」とも呼ばれる、清里開拓の功労者であるポール・ラッシュユ、「甲州財閥」と呼ばれる山梨の実業家のひとり、富士身延鉄道(現在のJR身延線)の建設を行った小野金六や、山梨県の人々を苦しめていた地方病の治療や予防に尽力した杉浦健造など、9人の偉人たちを取り上げます。



山梨近代人物館  
展示室内子ども向けコンテンツ

山梨近代人物館には、知らないことや知りたいことがたくさんあつまっています。また、館内には、プロジェクト

シオンマッピング「笹子隧道物語」やタッチパネルで答えるクイズなどもあり、たくさんの方々と楽しく出会うことができます。

開催期間は、4月1日(水曜日)から9月27日(日曜日)までです。開館時間中は、いつでも無料で観覧できます。また、団体予約も受け付けています。詳しくは電話でお問い合わせください。お問い合わせの電話は、055・231・0988です。

先生方へ「博学連携のお知らせ」  
美術館、博物館、考古博物館、埋蔵文化財センター、文学館、科学館

美術館、博物館、考古博物館(埋蔵文化財センター)、文学館、科学館では、教育プログラム、開設や出前授業、貸出教材など各館の特色を生かした教育普及事業を実施しています。詳細は各館担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

〈問い合わせ先〉

- 県立美術館 学芸課 電話 055・228・3258
- 県立博物館 企画交流課 電話 055・261・2631
- 県立考古博物館 学芸課 電話 055・266・3881
- 埋蔵文化財センター 電話 055・266・3016
- 県立文学館 学芸課 電話 055・235・8080
- 県立科学館 電話 055・254・8151

美術館、博物館、考古博物館、文学館では、小・中・高・特別支援学校の児童と生徒は、常設展・特別(企画)展を無料で観覧できます。なお、近代人物館はどなたでも無料で観覧できます。